35 テーマ別 笑話

標準問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。 〈宮城〉

ある所の草庵に貧僧あり。*非時に行かんと思ふ折ふし、雨ふりければ、しばらく晴れ間を待ちける所へ、*近付一人来り、「からかさ一本御貸し」といへば、かさは一本、我が身も非時に行けば貸す事はならず。貸さぬも気の毒。ちやくと横になり、昼寝したる顔してゐる。この近付、「これこれ」と起こしけれども、寝入りたるふりしてかまはねば、ぜひなく帰り、隣の門に雨やどりしてゐる。かの僧、むくむくと起き、非時遅くならんと思ひ、かさをさして出ければ、隣に雨やどりしてゐたる男、「これ御坊、手がわるい」といへば、せんかたなくて、からかさをさして大いびきをかいた。

〈「露休置土産」より〉

（注） 非時＝僧のとる食事。
近付＝親しい知人。

5

(1) 線「いへば」を現代仮名遣いに直しなさい。

(2) 線「これ御坊、手がわるい」とありますが、近付が貧僧にこのように言った理由を、二十五字以内の現代語で書きなさい。

(3) この古文で貧僧はどのような人物として描かれていますか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 主体的な行動はとれないものの、相手の思いにしっかり応える、温良な人物。

イ その場をとり繕えなくなると突拍子もない行動をとってしまう、滑稽な人物。

ウ 相手の存在を無視してまでも貪欲に睡眠をとろうとする、自己中心的な人物。

エ 自らの欲望にとらわれることなく、知人の窮状を救おうとする、真摯な人物。

出題傾向
- 「笑話」とは、滑稽な話やわらいばなしのこと。江戸時代の作品が多く、当時の庶民の日常生活が描かれている。
- 文章の内容をつかむだけでなく、どこがおもしろいのかを考えながら読もう。

2　次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。　〈山形〉

江戸時代、寺や神社では、秘蔵している仏像や宝を公開する「開帳」が盛んに行われるようになり、御利益を求めて参詣する人々でにぎわった。

ある在郷のやせ寺に、①山崎の開帳うらやましく思はれけれど、霊宝な
　田舎の貧しい寺に僧がいて　山崎にある宝積寺　秘蔵の宝

ければすべきやうなく、智恵を出して開帳の札にいはく、

一　当寺代々相つたはる貧乏神、御夢想によつて、来る七月十四日より開帳せしむるもの也。もし参詣なき方へは、貧乏神御入りあるべきとの御託宣なり。さうさう参詣あるべく候。以上
　夢のお告げ　　神仏のお告げ

未五月四日

と書きて、さあつかみどりじやと、②地下中うちよりにぎはふところに、
　さあ客が集まるぞ　当日になり村中の人が大勢集まっている

不思議や、かの神あらはれたまひ、さやうにわれを人目にさらし、銭かね取りこみ繁盛せば、此寺には住みがたし。名残惜しやと、夕ぐれにかき消すごとく失せたまふ。③さても智恵かな、智恵かな。〈「軽口御前男」より〉

(1)　〰線「すべきやうなく」を現代仮名遣いに直しなさい。

(2)　═線「かの神」が話している部分は、どこからどこまでですか。古文中から抜き出し、初めと終わりの三字を書きなさい。

～

(3)　═線①「山崎の開帳うらやましく思はれけれど」とありますが、「やせ寺」の僧が「うらやましく」思った理由を説明した次の文の□A・Bに当てはまる言葉を、古文中からそれぞれ二字で抜き出しなさい。

・やせ寺の僧は、寺が貧しく何とかしたいものの、A　がなくてB　ができないから。

A

B

(4)　═線②「地下中うちよりにぎはふ」とありますが、村中の人が大勢集まっている理由として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　参詣しなければ、貧乏神に取りつかれると思ったから。
イ　参詣することで、自分も智恵者になれると思ったから。
ウ　参詣することで、山崎の秘宝が見られると思ったから。
エ　参詣しなければ、寺が無くなってしまうと思ったから。

(5)　═線③「さても……智恵かな。」とありますが、筆者はどのようなことに「感心している」と考えられますか。四十字以内の現代語で書きなさい。

アドバイス

時代は違っても、人々の行動や思いは現代に通じるところが多い。笑話のおもしろさも、基本的には現代と変わらない。笑話の滑稽な点は、その古文の主題につながる重要なポイントとなる。最後まで読み通して内容とオチをつかもう。